【送辞】

空を飛び交う小鳥のさえずり。暖かい春の光。今にも開こうとしている校門の桜のつぼみ。そのすべてが先輩方の旅立ちを祝っているかのようです。本日、晴れてこの三国高等学校卒業を迎えられた三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生代表としまして、心よりお祝い申し上げます。

今、皆さまは、この三国高等学校での三年間をどのように振り返っていらっしゃるのでしょうか。入学してから多くの人々との出会い、最高の思い出となった修学旅行、先輩方が主役となった学校祭。様々なことを経験し、最高の思い出を築き上げてこられたことと思います。常に私たちの前を歩いていた先輩方の背中はとても輝いていました。今、お別れに際して目を閉じてみると、私たち在校生にも、先輩方とともに過ごした、数々の思い出が蘇ります。入学したばかりで戸惑っている私たちに優しく声をかけてくださったあの時から、先輩方は常に私たちの模範でした。そんな先輩方の優しさのおかげで、慣れない環境でも不安にならずに学校生活を送ることができました。

部活動においては、練習が終わった後も一緒に残って自主練習に付き合ってくださいました。時には厳しく、時には優しく指導してくださった日々は忘れられません。苦しい練習の中でも、挫けることなく、鍛え抜かれた鋼の魂は尊敬そのものです。

先輩方が引退された後、私は野球部の副キャプテンという大役を任されました。私たちがチームを引っ張っていく立場になると、先輩方がどれだけ後輩のことを考え、キャプテン、副キャプテンを中心にチームをまとめ上げてきたのかを身に染みて感じました。先輩方と比べ、頼りないところが多く、役割をまっとうすることが難しいですが、いつも先輩方の姿を思い出し、今まで築き上げてきたものを後輩達にも伝えていけるよう努めていきます。

今年は、東京オリンピックが開催されます。オリンピックでは、何人もの選手が偉業を成し遂げ、多くのドラマを生んできました。そんな選手たちも地獄のような苦しい経験をし、膨大な時間を練習に費やしてきたことと思います。先輩方が、高校生活の中で自分自身の夢に向かってひたむきに努力する姿は、まるでオリンピック選手のようでした。

この先、先輩方は進学に、就職にと、それぞれの道を歩んでいかれると思います。先輩方の前途には素晴らしい未来があると共に、一人ひとりのドラマが生み出されると確信しています。先輩方にはどんな困難なことにもくじけず頑張っていただきたいと思い、送りたい名言があります。それは、先日お亡くなりになった、野球の名選手であり名監督である野村克也さんの言葉です。「若い時に流せなかった汗が、年を取ったときに涙に変わる」

今一瞬のやる気というものは、誰にでも持てるものです。ですが、持続性のあるやる気は目標を深く意識した人にしか宿りません。今の苦しみは必ず将来につながる、そんな気持ちを持ち続けてください。

今、高校を卒業し、社会という大空へ飛び立たれる先輩方。先輩方には、困難を共に乗り越えてきた仲間、その仲間との楽しい思い出、そして、この学び舎で身に着けた知識や経験があります。三国高等学校で巡り合った人たちとの「絆」を生涯の宝とし、信念を持って未来を切り開いていってください。私たち在校生も、先輩方が熱い想いで築き上げてきたこの三国高等学校を大切にし、その伝統を受け継ぎ、さらに発展させる覚悟です。先輩方もこの母校である三国高等学校を忘れることなく、温かく見守っていただけますよう心からお願い申し上げます。

最後に、卒業生の皆さまの御健康と、さらなる御活躍を心よりお祈り申し上げ、在校生代表の送辞とさせていただきます。

令和二年三月二日

在校生代表　山﨑　心太郎